



[日時]

2017年1月26日(木)

13:30~16:30

[場所] 普門館4階国際会議場

東京都杉並区和田 2-6-1 TEL:03-3384-2337



特別講演

元カンボジア難民

CAT World Service and Tours

ジェネラルマネジャー

プノム氏

Mr. Noun Vannak

[プログラム] 敬称略

開会挨拶: WCRP 日本委員会役員

WCRP 難民問題の取組み (スライドショー)

カンボジア難民支援を振り返って:

山田能裕 (WCRP 日本委員会参与、天台宗瑞応院住職)

講演者紹介: 根本昌廣 (WCRP 難民問題タスクフォース責任者)

講演: プノム氏

質疑応答・コメント

閉会挨拶: 庭野光祥 (WCRP 日本委員会理事)

特別学習会

共に生きるための難民支援とは
(公財) 世界宗教者平和会議日本委員会

[お申込み・お問合せ] (公財) 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会事務局

TEL:03-3384-2337 FAX:03-3383-7993 Email:info@wcrp.or.jp URL:http://www.wcrp.or.jp

[開催背景]

2016年12月にRfP/WCRP国際共同議長で日本委員会理事の庭野光祥先生(立正佼成会次代会長)が、カンボジア・プノンペンを訪問されました。最終日、プノンペン市内のホテルから空港まで現地旅行社が手配する車で移動されたときに、同乗されていた現地ガイドの方から、ご自身が元難民で、タイ国境の難民キャンプで日本のNGOに助けて頂いた、との話ができました。今回、日本にお迎えするのはこのガイドをされていたプノムさんです。プノムさんは、10歳のときにポルポト政権による迫害からプノンペンの自宅を追われました。そして、命からがら国境を越えてたどり着いた難民キャンプは、WCRPが支援していたサイト2。WCRP養護センターで生活支援を受けながら教育を受けました。そのときに学んだ日本語を活かして、現在ガイドをされています。プノムさんは「WCRPは私たちの夢と希望でした。一日も忘れたことはありません」と今も感謝し続けています。

幼い頃、ポルポト兵に捉えられて九死に一生を得た体験、そして10歳で難民となって以降、家族との別離、キャンプでの生活、和平後の家族との再会というさまざまな体験をしてこられました。今回、プノムさんの体験を聞かせて頂き、難民の方々への支援を通して、世界の人と人とのつながりの大切さを改めて学び、今日の難民問題に対する私たちの取り組みの可能性を共に考えてまいりたいと思います。

[Noun Vannak(プノム)氏プロフィール]

- 1969年 プノンペン生まれ
- 1970年～1979年 家族と一緒に暮らす
- 1979年 ポルポト政権後、家を追われ難民生活が始まる
UNBROの支援などにより生活
- 1985年 サイト2 難民キャンプに辿り着く
- 1988年 サイト2 難民キャンプの孤児センターにWCRPの支援で住み始める
WCRPの歌や日本語を学んだ
- 1992年 プノンペンに戻ったのち大学で経済を学ぶ
- 1994年～1995年 母の叔母と一緒に暮らす
- 1995年 結婚
- 1997年 シムリエップ州に移り住み、MSツアーリスト旅行会社の仕事を始める
- 2000年～現在 日本語のガイドとして働いている
- 2000年～現在 日本語のガイドとして働いている

[WCRPカンボジア難民支援]

カンボジアでは、1975年4月以降、過酷な支配により300万人を殺戮したとされるクメール・ルージュ、これに対するベトナム軍の介入とヘン・サムリン政権の樹立、さらにクメール民族国家会報戦線(KPNLF)の蜂起などによって、3つのグループによる紛争が続く、多くの民衆が殺され、傷つき、家を失い、難民としての生活を余儀なくされていました。

WCRP日本委員会はWCRP国際委員会及びACRPと協力して、1980年1月、第1回難民救援調査団をタイ・カンボジア国境地帯に派遣。同年2月、WCRP日本委員会は、カンボジア難民をはじめ難民の救援活動を人道に緊急な課題であるとして本格的に取り組むこととし、「難民に関する部会」を発足させ、平和開発基金を窓口で募金を開始した。同部会は、現地の要請に応じて、資金援助をはじめ、食糧、衣料、トラック、ポンプ、井戸、薬品、通信機器などの援助物資を送り、救援活動を始めました。

さらに、1984年2月、WCRP日本委員会婦人部会による第1回カンボジア視察団を派遣。帰国後、委員一丸となり「里親運動」の具体化を推進した。翌年2月、援助の趣旨、現地の惨状、お願い事項の詳細を記載したパンフレットを作成。目標100人を超え、130人の応募があり、同年6月、来日中のソン・サン首相に里親運動資金117万円を手渡しました。

また、1987年11月、タイ・カンボジア国境地帯「サイト2」のノンチャン・キャンプにWCRP平和基金の援助があり、「WCRP養護センター」が誕生。同センターでは当初150人の里子がいたが、後に190人まで増え、その世話人の人件費支援も継続的に行われました。

里親の数も300人近くなり、里子たちも成長。1990年3月、センターは和平を迎え、それぞれ祖国に帰ることになり解散。里子たちが無事に祖国に帰る日まで見守り、最後のひとりまで援助は続けました。里親運動は約9年間継続されており、その他、「小学校建設運動」や「クメール語書籍配布」など、多角的な支援が継続されました。